

# 教育研究所だより

No.221号 令和2年11月26日(木)

【発行者】守山市教育研究所 所長 西川 典子

守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)

TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237

E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp

HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu\_index.html

## 新型コロナウイルス感染症と今後の生活について

守山市教育委員

福田正悟(ふくだ医院長)

世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症は、日本では今年2月のダイヤモンド・プリンセス号から始まり、4月第1波、緊急事態宣言が発令され5月に解除、その後8月に第2波が襲来し、現在は第3波の様相を示す中、日本全国の感染者数は10万人を超え、滋賀県でも600人を超え毎日のように数名の患者が発生している現状です。

スペインかぜ以来、100年ぶりの人類とウイルスの戦いが起こっています。このウイルスは軽度の症状や無症状の人が少なくない弱毒性ウイルスです。このような弱毒性ウイルスは変異を繰り返すためワクチンを作りやすく、撲滅は不可能なのです。ウイルス自体は弱毒性ですが、高齢者や生活習慣病のある方などには重篤な肺炎や血管炎など、さまざまな臓器で炎症を生じるやっかいなウイルスでもあります。

また、ステンレスやプラスチック上で4~6日間、ガラス上で2~3日間、木や布の上では1日程度の感染性があり、床や机上、共同機器(便器、電話機、スイッチ、リモコンなど)では高率に検出されます。さらに密室空間では数時間にわたり感染性は保たれ、潜伏期間も長く感染後5日間程度で発症しますが、発症2日前より45%が感染性を示すことが明らかになっています。このため無症状の患者がマスクなしで大きな声を出したり、食事をしたりすることで感染させるリスクが増大するのです。一般に1人の患者から2~3人程度感染させると言われており、マスクは感染患者からの排出するウイルス量を減少させるためには大切な手段です。

子どもたちの感染の割合は少なく、日本国内では約2%程度ですが、このところの経済活動の再開で10才~15才の感染がやや多くなって来ています。これは家庭内感染が主となっていることによると思われます。今回、新型コロナウイルス感染症で行った3月~5月の学校休校ではその影響が子どもたちにいろいろな方面に出て来ており、現在検証している所です。今後は、第3波に向けた学校の対応方針の改善が必要であると考えます。

これから冬に向けてインフルエンザ流行期に入ります。あまり恐れずにはいけません、気を緩めすぎてもいけません。しっかりとした飛沫・接触感染対策、すなわち、マスク、手洗い、換気、距離を取ることで、①自分が感染しない ②感染の媒介者にならない(感染を家に持って帰らない、クラスターの原因にならない)事が大切です。新型コロナウイルス感染症を正しく理解して新しい生活様式でこのコロナ危機を乗り越えましょう。





# 今年度の研究から



## 指導力向上に関する研究 1

「互いの考えや気持ちを  
進んで伝え合おうとする力の育成」育成  
～単元のゴールにつながる  
“Small Talk”の工夫～

本研究では、児童が興味・関心をもって取り組むことのできるコミュニケーションの目的や場面、状況等を設定し、第1時において単元のゴールを児童に示すことで、児童がゴールに向かって意欲的に学んでいけるような取組を実施している。

また、単元のゴールで使う言語材料を交えたコミュニケーションの場面として“Small Talk”を授業の中で位置づけ、積み重ねていくことにより、単元のゴールで使う表現の定着を図るとともに、児童が自信をもって自分の思いを英語で表現できることを目指している。

今年度は、「Google Classroom」を活用し、研究協力員それぞれの指導の工夫を共有しながら、指導案検討、授業実施につないでいる。

《研究授業における“Small Talk”の様子》



吉身小学校



物部小学校

担当者：係長 中道 裕恵

## 指導力向上に関する研究 2

「教育相談の視点を生かした  
学級活動のあり方と実践展開」  
～対話的關係を重視し、人と人がつながる  
居心地のよい学級を目指して～

本研究では、教育相談的な視点から特別活動の取組を見直し、人と人がつながり、居心地のよい学級をつくるための学級活動のあり方について研究を行っている。この取組を通して、問題の早期発見、児童生徒間での課題解決、教師の子ども理解が進み、教育相談がより充実することが見込まれる。

そこで、今年度は、研究協力員（各校1名）の学級において、居心地のよい学級にするためのアンケートと自己肯定感に関するアンケートを行い、その結果から各学級の現状と課題について分析し、具体的な取組を考え実践している。指導講師には立命館大学大学院 春日井敏之教授を招き、助言をいただいている。

《研究協力員会の様子》



担当者：研究員 天沼 翔太

## 不登校や子育てに関するお悩みをご相談ください

学校へ行けな  
くなって…



友だち関係はどう  
なのかしら？

### ＜面接相談・電話相談＞

面談や電話で、不登校や行きしぶり、子育てに関する不安や悩みの解決に向けて、ともに考えていきます。また、必要に応じて学校や園などとも連携します。

その他、お子さん自身の面接相談も行っています。新型コロナウイルス対策（マスクの着用、消毒、アクリル板の使用等）をしながら、面接相談を行っています。面接相談をご希望の場合は、電話にてご予約ください。（午前9時から午後5時まで 月曜日から金曜日※祝日は除く）

### 【相談・問い合わせ先 583-4237】